

柴田家稲荷社 修復終了



柴田さん（右）に、復元された社の説明をする荒畑さん（6月28日、熊谷市で）

熊谷、21日特別公開

色鮮やかな彫刻 復元

国宝と同じ建築技法が使われ、江戸時代中期に造られた「柴田家稲荷社」（熊谷市上新田）の修復が終わり、21日に特別公開される。損傷が激しかったが、14か月にも及んだ作業で、色鮮やかな彫刻などが復元された。

地域の名主だった柴田家は1774年（安永3年）、五穀豊穡と家の発展を願い、稲荷社を建立した。国宝の「歓喜院聖天堂」（熊谷市妻沼）にも関わった内田清八が設計などを担ったことから、部材の形や社の構造などに共通点が見られるという。

柴田家15代当主の柴田忠

THE YOMIURI SHIMBUN

読賣新聞

2025年(令和7年)

7月18日 金 曜日

雄さん(93)が昨年2月、ものつくり大学(行田市)に修復を依頼した。作業では高さ約3・2層の稲荷社を1000以上のパーツに解体。傷みの激しい部品は補い、元の部材を約9割残して組み上げ直

した。作業を統括した同大の大学院生荒畑光希さん(23)は「色の再現に最も苦労した」と振り返る。ほんの一部に残っていた顔料を見つけて、聖天堂などを参考にし、建立当時の配色を分析

落ち着いた朱色に、赤や青、緑、金などの色鮮やかな彫刻があらわれた姿を再現した。

同大の横山晋一教授(保存修復学)は「江戸時代中期は経済状況が安定していたからこそ、これだけおしゃれなものが建てられたのではないか。市指定文化財の候補になる」と、価値を高く評価する。

「地域の宝として大切に守っていく」と柴田さん。

21日の特別公開は午前10時〜午後3時。その後は毎年5月の第3日曜日に公開する予定という。